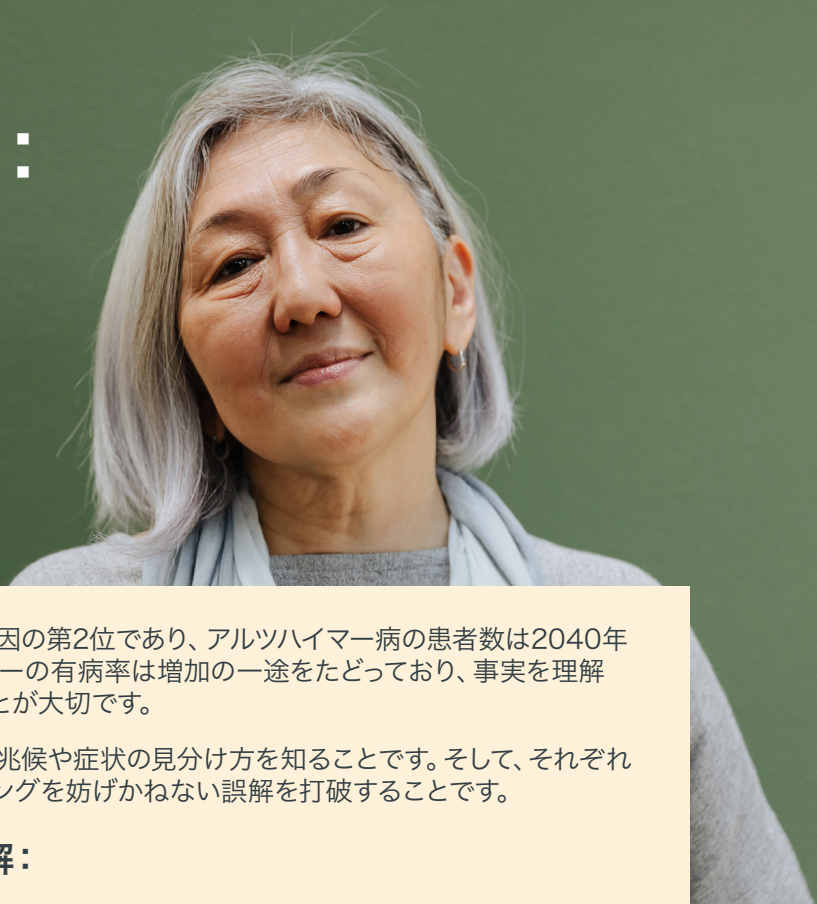


# アルツハイマー入門： 誤解と事実



アルツハイマー病は、カリフォルニア州における死因の第2位であり、アルツハイマー病の患者数は2040年までに倍増すると予想されています。アルツハイマーの有病率は増加の一途をたどっており、事実を理解し、この病気にまつわる偏見や誤解に注意することが大切です。

すべてのカリフォルニア州民にとって重要なのは、兆候や症状の見分け方を知ることです。そして、それぞれが前進するために必要なサポートを求めるタイミングを妨げかねない誤解を打破することです。

## アルツハイマー病に対してよくある誤解：

### 誤解

アルツハイマー病と認知症は同じものである。

アルツハイマーの診断を受けてしまうと、もはや自分の容態を管理する手立てはない。

物忘れはアルツハイマー病の唯一の兆候である。

アルツハイマー病を発症するのは、高齢者だけである。

すべてのアルツハイマーは遺伝によるものだ。

### 事実

認知症は、記憶や思考などに障害をもたらす疾患である。アルツハイマー病は認知症の一種で、全症例の6割から8割を占めている。

診断された場合、特に早期であれば、医療的および社会的な支援を検討し、生活の質を向上させる機会が増える可能性がある。

物忘れは典型的な老化現象だが、日常生活に支障をきたすような記憶力の低下は**そうではない**。手慣れた仕事をこなすのが困難になったり、時間や場所がわからなくなったり、物を置き忘れたり、手順がわからなくなったり、同じ質問を何度も繰り返すようなことが起きたりした場合は要注意である。

早期発症型アルツハイマー病の場合、早ければ55歳で発症する人もいる。

あなたの家族がアルツハイマー病である場合、あなたも将来アルツハイマー病にかかるとは限らない。リスクを下げ、脳の健康状態を良くさせる生活習慣因子は他にもたくさんある。その中には、心臓病や糖尿病など他の慢性的な健康疾患を監視することも含まれる。